

親子聖書日課

NO.1870 2024.7/28-8/3

名前

[日]「日々、私達を担い、救われる神」とは、私達の人生の様々な重荷を負って下さるだけでなく、神の民である私達自身を背負い、天国へと運んで下さるのです。「死から解き放つ神」がおられるのですから、「歌いつつ歩まん、ハレルヤ！」です。

[月]「神殿に対する情熱が私を食い尽くす」とは、主の宮清めの所で語られました。主はご自分の体である教会を贖うために、十字架で全てを捧げ尽くされました。この愛に応じて、私達も情熱をもって、上尾教会の働きのために、身を捧げましょう。

[火]「急いては事を仕損じる」物事はじっくり考えた方がよいですが、主を信じることだけは別です。「速やかに」今すぐに信じることです。「またいつかにしよう」と先送りしては、救いに至りません。「今こそ救いの日」今こそ、主を信じましょう。

[水]「お母さんのお腹にいる時から、教会へ行ってきました」と、子供達は信仰告白します。生まれた前から主に召されていたという自覚は、生涯、主を避けどころとし、年老いても益々希望と平安に満たされるのです。胎教こそ、信仰の第一歩です。

[木]武力や権力によって治められる国は、いつも不満が残り、不安定な状態になります。公正と憐れみをもって民を治める指導者は、神の前にへりくだるところから生まれます。国家の指導者を非難する前に、主に救われるように、祈りましょう。

[金]「なぜ悪人が栄えるのか」いつの時代も疑問です。その答えは、「神の聖所」でしか見つけ出せません。悪人の最後は滅びですから、彼らの繁栄を羨ましがってはいけません。むしろ、義人に永遠の報いが与えられていることを喜びましょう。

[土]神の御手は力にならないと思うことはありませんか。しかし「右の御手は、ふところに入れたまま」ではありません。昼も夜も神を信じて祈る人の上に、御手が働き、助けて下さいます。神こそ「この地に救いの御業を果たされる方」です。



©fumino

	聖書	問題	答え
日	詩編 68:1-36	日々、私達を担い救われる神、主をどうしますか。	
月	69:1-37	あなたの神殿に対する何が、私を食い尽くしていますか。	
火	70:1-6	「神よ、どのように私を救い出して下さい」と祈りましたか。	
水	71:1-24	どこにある時から、あなたに依りすがってききましたか。	
木	72:1-20	栄光に輝く何をとこしえにたたえますか。	
金	73:1-28	神はとこしえに私の何ですか。	
土	74:1-23	神はこの地に何を果たされる方ですか。	
感想と祈りの課題			